

# 校内研修計画

甲州市立大和中学校

## 1 学校課題

「生きる力」の育成に関する本校教育課題は次の4点である。まず、平素の学習活動や各種調査結果から家庭学習の習慣が確立されていない状況にあるといえる。多くの生徒が塾に通っているが、家庭での主体的な学習はなされていない。継続的な学習習慣の確立、主体的な学習態度の育成が、基礎的・基本的な内容や技能の定着につながり、さらに思考力・判断力・表現力など課題解決的な資質・能力の育成に役立つと考える。二つ目は、幼少時から少人数集団の中で、互いに思いやり、助け合って学校や地域での生活を送るなど、思いやりの心をもった生徒が多い。しかし、互いのことをよく知っているがため、きちんと話す必要性が低く、自分の考えを表現する力が弱い。今後も道徳教育や特別活動の充実により、自主的・自律的で、豊かな心をもった生徒の育成を図るとともに、表現力をつけるような指導もしていく必要がある。三つ目は、本校の生徒は体力の向上や心身の健康の保持増進に関する関心が高い。体育や健康安全に関する指導並びに部活動の充実により、たくましい心や身体をもち、生き生きと生活できる生徒の育成に努めたい。四つ目は、教職員と生徒の信頼関係をさらに強めるとともに、開かれた学校の実現を目指し、保護者や地域社会と協力して生徒の望ましい成長を支えていくようにさらに努力したい。

## 2 研究主題・研究副主題

研究主題

『生きる力の育成』

研究副主題

～「伝え合う力」を高める指導を通して～

## 3 主題設定の理由

今年度から新学習指導要領が完全実施になり、「知識基盤社会」の時代において「生きる力」の育成がますます重要になる。そのために「基礎的な知識・技能をしっかりと身につけること」「知識・技能を活用し、自ら考え、判断し、表現する力を育むこと」「学習に取り組む意欲を養うこと」が方針として示されている。

このことを踏まえて、本校の学校課題を振り返ったとき、「生きる力」、特に「確かな学力」の定着に関して、各教科における知識や技能の修得について重視した上で、それらの知識や技能を生徒一人一人が自らの学びに即して活用を図る学習活動が展開される必要があると考え、平成20年度より学習活動を通して生徒に「確かな学力」をはぐくむ指導の在り方について共通理解を図るとともに、授業実践を行ってきた。

今年度は昨年度に引き続き、大和中生徒の課題の一つである「伝え合う力」に焦点を当て、さらに深化・発展を図り、「生きる力」を育成していきたい。

## 4 研究の具体的内容と方法

### (1) 授業実践について

- ①全教科に共通する「伝え合う力」または各教科の特性に応じた「伝え合う力」について指導主事や講師を招聘して理論研究を行う。
- ②一人一実践と全教職員参加の研究授業を行う。一人一実践や研究授業は、「伝え合う力」の視点で授業を行い、その効果について検証する。また、昨年度からの継続で学習会のような全校活動を行う。「伝え合う力」がどのように育まれているか生徒へのアンケート

を年度初め・年度末の2回実施する。

(2) 甲州市「確かな学力」育成プロジェクトに関わって

①授業づくり、授業改善の取り組み

- ・「学習の手引き」(大和中学校授業の受け方)の再確認、教室掲示
- ・一人一実践の授業研究

②学級・集団づくりの取り組み

- ・Q-U検査の詳細な分析を行い、全体で確認し合い、学級づくり・集団づくりに生かす。
- ・あいさつの取り組み

③地域、保護者との連携の取り組み

- ・授業参観(年4回)、学年部会
- ・学校開放期間
- ・行事への参加・・・お祭りや地区行事、ボランティア活動等
- ・学校行事への参観の呼びかけ(学園祭等)

## 年間校内研究計画

研究主任 前島香織

研究テーマ	教科	単元・領域 等	授業者	学年	授業の時期	T・C要請
『生きる力の育成』 『伝え合う力』を高める指導を通して	国語	話し合い活動	鮎澤智美	3年	10月	
	社会	地理的分野 日本の諸地域	前島香織	2年	11月	○
	数学	1次関数	筒井 弘	2年	10月	
	理科	化学変化とイオン	奥山寿夫	3年	10月	
	保健 体育	「運命」鑑賞	富田照也	2年	11月	
	音楽	球技 ソフトボール	小石澤重人	2,3 年	10月	
	家庭	自分らしく清潔に着る	藤本珠美	1年	12月	
	英語	Unit 8 疑問詞 where whose の用法	杉山智恵	1年	11月	

